

瓦の 3 次元計測

2つの瓦はいずれも平城京の薬師寺から出土した創建時(8世紀初頭)の軒丸瓦です。一見まったく異なる文様にみえますが、実は同じ型で作られています。一つの型で作る瓦の数は千点を超えることも。その過程で型は劣化が進みます。傷が生じたり、文様を彫り直したり、修復することもあります。2つをじっくり比較すると、同じ部分や異なる部分が次第にみえてきませんか？

これまで、瓦の記録は、写真や実測図、拓本という方法でおこなわれてきましたが、近年、デジタルカメラ等で撮影した写真から3次元の形を再現する技術が普及してきたため、出土遺物の記録にも応用しはじめたところです。一つの瓦を中央で分けて表示しましたが、右は写真から得られた色情報を貼り付けたもの、左は凹凸情報だけを示したものです。色を取り除くことによって、微細な痕跡も明瞭に観察できるようになります。

この3次元データは、遺物の状態を記録するだけでなく、今後は研究や展示等に積極的に利用していく予定です。

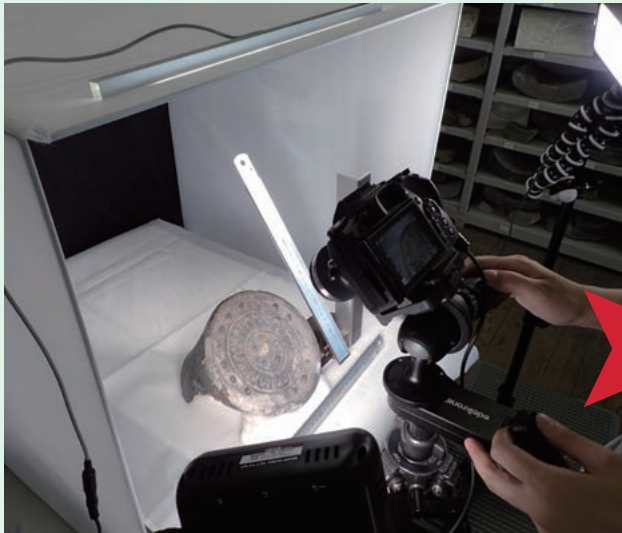
(埋蔵文化財センター 中村 亜希子／都城発掘調査部 今井 晃樹)



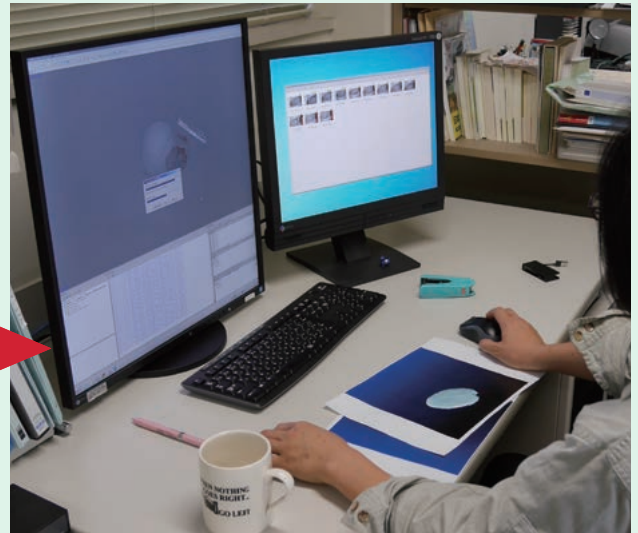
文様彫り直し前

凹凸情報のみ

凹凸情報と色情報



写真の撮影



パソコンでの解析

文様彫り直し後



凹凸情報のみ

凹凸情報と色情報
(どちらも原寸大)